



浅野川中学校だより

あさのがわ通信



第79号 令和8年2月26日発行
金沢市立浅野川中学校

Email asanogawa-j@kanazawa-city.ed.jp

学校ホームページURL

<https://kanazawa.schoolweb.ne.jp/1720013>

*学校便り作成にあたり、生徒の文章や写真を使用する場合があります。浅野川中学校個人情報取扱規程を遵守しておりますが、お気付きの点がありましたら学校までご連絡ください。

インターネット利用の現状と情報モラル教育の課題・・・

～あなたが「自分を守るため」にできること3つ！～

石川県教育委員会の調査によると、インターネット利用時間は、平日・休日ともに増加傾向にあり、調査対象の小6、中1ともに「2時間以上利用する」割合が半数を超えています。それに伴い、長時間の利用による疲れや睡眠不足、学習活動への悪影響を感じる児童生徒の割合も増加しています。



ネット上での交流においては、インターネット上で知り合った人とメッセージなどのやりとりをしたことがある割合、実際に直接会ったことがある割合がいずれの学年でも増加しています。また、悪口や傷つく書き込みをした「加害経験」や「被害経験」の割合も増加傾向にあります。個人情報の流出については、自分の情報や他人の情報をインターネット上に書き込んだことがある割合が、全国平均と比較していずれの学年でも高い傾向にあります。このような現状の中「ルールを決めている」家庭の割合は増加しているものの、学年が上がるにつれてその割合は低くなっています。特に、利用時間に関するルール作りが依然として課題となっています。

今年度、本校でも新設の「デジタル科」や「ネットトラブル防止講座」、「非行被害防止講座」など様々な機会を捉えて、情報モラル教育の充実を図り、情報活用能力や情報リテラシーなどを発達段階に応じて学んできました。しかし、SNSに起因する生徒間トラブルは依然として後を絶ちません。むしろ学校で把握している事案は氷山の一角かもしれません。

社会にインターネットが普及し、学校においてもICTを活用した学習が当たり前になり、生徒のみなさんも小学校の頃から情報モラル教育を受けて、利便性と共に十分にその危険性について学んできています。それでも問題が起きています。

「知識があっても行動してしまう、リスクを冒してしまう」背景には、成長期特有の脳の発達段階とSNS特有の心理的メカニズムが複雑に絡み合っていると考えられます。これらを抑制し、「抑止力＝自分を律する力」をどう働かせるべきかを身に付けることは重要になります。

小・中学生の時期は、感情や報酬（ワクワク感、認められたい欲求）を司る「大脳辺縁系」が先に発達します。一方で、理性的判断や衝動を抑えるブレーキ役の「前頭前野」は20歳ごろまで未熟なままです。そのため、「危ないとわかっている（知識）、目の前の楽しさや好奇心が勝ってしまう」という生物学的な弱さがあります。

SNS上での「いいね」やフォロワーからの反応は、脳にとって強力な報酬になります。特に中学生では、友人関係から外される恐怖＝同調圧力が強く、「みんながやっているから」「返信しないといけないから」という心理が、知識による制止を上書きしてしまいます。また、「自分だけは大丈夫」という正常性バイアスが働き、知識として「危険」とは知っていても「この人は優しそうだから自分は大丈夫」という根拠のない自信が危険な行動を後押しします。



これらのことを前提に、生徒のみなさんが今すべきこと、身に付けるべき3つのことを提案します。

- ① 衝動的にメッセージを送ったり、投稿したりしたくなったときは、「1分待つ」習慣をつけましょう。未熟なブレーキを「時間」で補うのです。家庭で決めたルールは、自分を守るための「補助ブレーキ」だと捉えましょう。
- ② 焦りや不安を感じたときこそ「あ、今自分はSNSの仕組みに動かされているな」と一歩引いて自分を客観的に見てみましょう。リアルの友人関係や睡眠時間を削ってまで優先すべき通知はありません。
- ③ 「もし、この情報が一生消えなかったら？」「もし、この相手が悪い人だったら？」と、最悪のケースを具体的に想像してください。自分の情報だけでなく、友達の情報を守ることも、ネット社会に生きる私たちの重要な責任です。